

171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

AA

日本ニューズレター No.81

特集

2000年4月8日(土)9日(日)・名古屋市「ウイルあいち」にて
第1回全国サービスフォーラムを終えて

第1回サービスフォーラム概要報告

広報担当常任理事：木村

1999年及び2000年の評議会で同意を頂いた「第1回全国サービスフォーラム」が、中部北陸地域委員会の献身的御努力のもと、素晴らしい実行委員会が編成され、4月8日～9日にかけて名古屋・ウイルあいちにおいて盛大に開催されました。

開催に至るまでには、様々な経過をたどり、とりわけ「常任理事会主催」という位置付けに対するそれぞれの思いがスタート段階でいろいろとあったと伺っておりましたが、終わってみて感じたことは、「なんと感動的なフォーラムなんだろう」と素晴らしい経験をさせていただきました。これも、ひとえに実行委員会の方々のサービスに対する真摯な思いが参加された多くの仲間へ伝わった結果と確信いたしております。

振り返ってみますと、まず、テーマの設定に至る過程でのアンケート方式の採用、その結果のプログラム作成、そして会場確保、予算編成、最終段階における役割確認等々その全てにおいて明確な議事録が残されていることに深く敬意を表するとともに、それゆえに無駄な手戻りの無い効率的な委員会運営が可能であったと思います。

いささか生意気なことを申し上げたかもしれませんが、なによりも私にとって前任の常任理事からの引継ぎ事項の最も大きな事柄として認識していただけに、立派な議事録とお会いした実行委員会メンバーの迫力溢れる姿を拝見するとそれまでに気負っていた自分が恥ずかしく感じたほどでした。

さて、フォーラムの内容ですが初日のトップに基調になるスピーチは、現在の日本AAの全体サービス体系をその個人的体験とともに実現してきた先行く仲間のスピーチから始まり、中部北陸地域の3人の仲間によるAAの原点にある「グループ」についての分かち合いがウィット溢れるスピーチとともに会場の参加者の共感が得られていたように思います。残念だったのは、各スピーチの後で会場の皆さんとの分かち合いが時間の関係で出来なかったことですが、夕食の後の分科会では、「ホームグループの運営」、「メッセージ・広報をよりよいものに」、「サービスと伝統の精神」、「イベントは有意義に行われているか」と題するテーマごとの分かち合いが十分行われ、参加者それぞれの思いとともに新たな情報入手の場

として貴重な経験が得られたのではないのでしょうか。

二日目午前は、前日の分科会報告がそれぞれの書記の方々の大変なご努力により報告され、引き続き「セントラルオフィス」、「地域のサービス、地区のサービス」、「矯正施設へのメッセージは今」、「AAの本をどう活用するか」というテーマのスピーチを深い経験と知識に裏打ちされた全体サービス経験者から頂き、歴史と新しい発想、急激に進捗しているAAをとりまく外部環境への対応、体系的になかなか分析できない事項の情報などが参加者の多くが宿題を頂いてしまったように感じます。ここでも、時間の制約で会場の方々と分かち合いが殆んどできず、それぞれの地区・地域・グループに持ち帰ってもらうことになりました。

二日目午後は、JSOの職員3名、ワールドサービス評議員2名、常任理事5名の方々によるパネルディスカッションが行われましたが、会場との分かち合いの時間がいくらか多くとれましたが、拡大評議会のような感じがしたのは私だけでしょうか。何はともあれ顔と顔、会話と会話によるふれあいが何よりも大きな分かち合いになったのではないのでしょうか。

最後になりますが、実行委員の皆様そして各スピーカーの皆様はこの紙上をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、来年も第2回全国サービスフォーラムを開催することを皆様にお約束いたしまして私の報告とさせていただきます。

サービスフォーラムからいただいた
熱い思いを抱きながら

名城G マナ

私がAAに来てから10度目位の実行委員会への参加になりますが、今までの中で一番楽しく、関わらせてもらえて幸せだったと思えるものでした。

この実行委員会の進行とともに、私自身の仕事の転機、そして経済的ですが両親からの自立というものが同時に進行して行きました。一挙にいろんなことがあってどうなるのかと不安でしたけれど、そのおかげで時間とか気持ちの配分といったものを考えざるを得ず、そのことはとても良い経験でした。

昨年の6月、地域委員会の場でサービスフォーラムの話を

聞いた時には、全く想像もできなかったことが、こうして実現されました。やっている最中には、それほど大変とは思っていませんでしたし、まるで必然的な流れのように受け止めていましたが、終わって改めて最初からを振り返ってみると、すごいことだったように感じています。

中部北陸の各地域の仲間が名古屋まで出てきて実行委員会に参加して下さったこと、常任理事の仲間も東京から名古屋まで何度も足を運んで下さったこと、今までの実行委員会にはあまり顔を見かけないような先行く仲間も参加して下さったこと、そして直前からは地元の本当に多くの仲間が手伝いに駆けつけて下さったこと、などなどそのどれが欠けたとしても実現不可能なことでした。ひょっとしたら、“奇跡”が起り続けていたのかもしれない。

こんなにも多くの、そして各地からの仲間が参加して下さったり、多くの実行委員が集まって下さったのは、“ハイパーパワーの意志”なのかなんて思って自分でびっくりしています。実は私、ハイパーパワーって言葉が好きじゃないんです。でもそうとしか表現の仕方が見つかりません。

正直な感想を言わせて頂くなら、内容に関しては心の中に思い描いていたものと違う感じがしていました。もっとこれからサービスへ関わっていく人達へのメッセージを中心にしたものであればという想いがあります。でも、今回のフォーラムは第1回目と考えると、十分満足してもいいかなとも思います。

また、会場設営・受付・宿泊など当日の実行委員の人の動きの見事さについては、自画自賛になりますがほとほと感心してしまいました。皆と一緒に作り上げ、私もその中の一人として手伝わせてもらえたことをとてもありがたく思っています。

私自身は実行委員会に参加していることで、様々なことを感じさせてもらったり、今まで会うことのできなかった遠方の仲間と接触する機会も与えられました。フォーラムを何のためやるのかから始めて、最後の当日の準備に至るまでの全経過に関わる中で、その時々、自分が今やることを確認したり、仲間に任せて信じることをせざるを得ませんでした。それはとても貴重な体験でした。その中で、“サービスって一体 何？”というテーマの私なりの答えを見つけることができました。様々な形のサービスがあるのですが、“サービスは人を思いやる気持ち”だと思いました。私が一番苦手とすることなので、このフォーラムに参加したことにより、これからの私自身への課題を突きつけられたような感じがしています。したがって、フォーラムは終わりましたけれど、私にとっての“サービスって 一体 何？”は始まったばかりです。

最後に、仲間を始め会場の人達、そして全ての人達のおかげでフォーラムが開催できましたことに心から感謝し、この熱い思いを抱きながら明日に向かって生きていこうと思っています。皆さん、本当に、ありがとうございました！！

第1回全国サービス・フォーラム 全体から感じる実行委員会の意図するものは

関東甲信越後期評議員 東濱

サービス活動に親近感を持ってほしい

ということだと最初にピンときました。その意図がしっかりと伝わるといふ事は実行委員会に一体性が現れていた証であると思われれます。その時点でフォーラムは90パーセント実のあるものになったのでしょ。

実行委員会の熱意のようなものが参加者を巻き込んだ形に

なりました。今回サービスの原点は実はこの熱のようなものだと感じました。

この熱の様なものは、個人の内面から発生して、周囲の人を巻き込んでいくのでしょうか、その過程で一体性が現れると言うのは、まるで皆が何かに導かれてもしているような不思議な感じがあります。

自分の内面に何か熱いものを感じませんか？

次回のテーマにふさわしいかどうか、解りませんが、サービス活動の経験の分かち合いとして、過去の行動の報告もさることながら、それに参加した人の内面的な動きの分かち合いができれば楽しいだろうと思います。さらなる全国サービスフォーラムの展開を期待しております。

仲間の熱意をこれからの力に

関西地域 八木

会場に入った瞬間、仲間の熱意を感じた。私はその時、直感的にこのイベントが成功すると感じた。それは主催側の地元の実行委員の方々や常任理事会の熱意と同時に参加した仲間ががもしたA A独特の熱いものが満ちあふれているのを感じたのだと思う。これはまさしくハイパーパワーの配慮である。きっと多くの仲間が待ち望んでいたイベントだったんだと、その時、素直にそう思えた。

日頃から全体サービスに関して感じていることや疑問を出し合える場が各地域では用意されてはいても全国の仲間と分かち合える場が今までなかったのだから当然のことかもしれない。評議会を経験した仲間からサービスに関わり始めた仲間まで参加者の偏りもなく、

私たちのステップ12活動は確実な広がりを見せていることも感じられた。ただ、残念だったのは現役の各地域評議員の参加が少なかったことだろう。

私自身は初日の分科会でスピーカーをさせていただき、日頃から感じていることを話させていただいた。むろんサービスフォーラムは討論はされても採択する場ではない。しかし他のスピーカーの方々も今までの経験から、それぞれの提案を持ち寄っており、新たに全体サービスに関する問題をさまざまな観点から参加者全員で考える、いい機会になったと思う。これは無責任な発言ができるという意味ではなく、今まで評議会でも出せなかった「全体サービスへのプラン」を全国レベルで分かち合えるという意味で画期的なことだったと思う。

夜は、各部屋でそれぞれ分かち合いがされていたのだろう、各部屋から仲間の声が廊下にまで聞こえていた。私自身も例に漏れず、仲間の部屋で遅くまで話していた。そして自室に戻ると、そこではまた別の分かち合いが…。

2日目のプログラムでJSO、常任理事会からの報告がなされたが、これも今までは各常任理事が地域をまわっていたことが全国レベルでされるという点で画期的だった。このプログラムはあまり時間がなくて会場の仲間からの質問や意見のやり取りがあまりできなかったという点では残念だったが、それは今後の課題となるだろう。

サービスフォーラムが成功だと感じるのももう一つ理由がある。それは今まで常任理事会や評議会の不備や全体サービスの執行について各グループや各地域から意見として出されはしたが、逆に各グループや各地域にもまだまだ問題があるのだということを感じたことである。グループの良心を評議会に提出すると同時に、やはり全国の仲間が全体サービスについて分かち合うイベントも今後、全国評議会の存



在と同時に大切なものなると感じた。私たちの共同体の最高の権威であるグループは苦しんでいるアルコールを手助けするというステップ12活動に於て自分たちの基盤を全国レベルで考え直す時にきているのかもしれない。私もこのイベントでもらった仲間の熱意を地域に持って帰り、これから与えられるであろう役割に役立てようと思う。むろん、多くの仲間もそういう想いで会場を後にしたのだろうと思う。

プログラムが終了し外に出たとき、桜が満開の名古屋城に花見客が向かう中、私は仲間と帰途についたが、あの桜の下にも私たちの未来の仲間がきついていることを思うと「ああ、いいイベントだった」で終わらせる訳にはいかない気がした。

第1回サービスフォーラムに参加して

北海道地域 七絵

雪が所々残っている札幌から、海を渡り、仲間3人と桜の咲き誇る名古屋へと向かう。

空港をおりると目の前がピンクや黄色、赤など鮮やかな花が咲き誇り、ようやく冬眠から目覚めたような気分になる。

2月の東京での25周年に参加して、また名古屋のサービスフォーラムにこれるとは、思ってもいなかった。いつかは北海道以外の仲間と一緒に分かち合いをと思いつながら、随分長い時間がかかったものだ…でも望んでいるものは、どんなに時間がかかろうが、与えられるものだとしみじみ思う。

名古屋に着き、強硬スケジュールの中でも、名古屋城だけ

はみたくて昼食もとらずにお城見物、思っていたよりも大きなお城に感激、きらびやかな大奥の情景に思いを馳せてるのもつかの間、歩いて会場へなんとあわただしいことなんだろうと思いつながら、受付を終え昼食を急いで取り戻ると、もうスピーチが始まっていたがとりあえず席に着き、一息つききました。林さんとは8年ぶりの再会でした。札幌で医療学会があり、出席していらしてました。当時、私は地域委員会に携わっていて、会場でAAの書籍を販売していました。北海道の地域活動が始まって間もなく、伝統やサービスマニュアルなど、何を書いてあるのか読む気にもならない、読んでも理解できないだろうと思いつ、頭を使わなくても出来ることあるだろうと単純な気持ちで、地域サービスにかかわって行った。ちょうど、仕事もしていなく、日中は時間があるので、銀行へ行ったり、郵便局へ行ったり、オフィスもなく自宅が事務所みたいなもので、書籍の販売、伝票、会計と走り回っていた。年に1回の地域集会のときなど、大きな声をあげ、ただのケンカではないのかと思われるような場面にとまどいながら、本当にどうなってしまうだろう、これでいいのだろうかと思いつたものです。林さんのスピーチを聞いて、私が初めてサービスにかかわったころを懐かしく思い出されました。北海道はオフィスがようやく出来たばかりで、

地区化の問題、献金、特に地域委員会の運営、メッセージなどこれからの活動が大いに期待される。

夕食後は4つの分科会があり、私はホームグループの運営に出席し、貴重な体験の話聞き本当に良かったと思いつました。ここ2年位、グループに対する関わりを避けるようになりミーティングの回数も減り、おのずと仲間との関係もうわべだけのものになり、何か後ろめたい気持ちで時間を過ごしてきた。何が原因なのかは、分かっている。仕事を始め、家



AAメンバーのみなさま- AA創始記念日にミーティング一回分の献金を! 国際協力献金のお願い

期 間 6月7日(水)~6月13日(火) 送金締切6月30日(金)
振込先 001901-148081 加入者名 WSM・AOSM

AA日本常任理事会国際協力委員会

6月10日は、ドクター・ボブのソプラエティーが始まった日で、AAが公式に創始された日です。世界の国々、それぞれのグループで、AAの創始を祝い、感謝をあらわす記念行事が行われています。

AAのない国、まだ始まったばかりの国の仲間を支援する献金で、わたしたちも感謝をあらわそうではありませんか。今年も、国際出版基金への献金を中心に、アジア、オセアニア地域でのサービス活動などを含め、国際支援活動全体への献金をお願いしたいと思います。

昨年の国際協力献金は、70グループ、261,759円、13人の個人献金で79,440円、合計341,199円の献金が集まりました。

献金先と献金額は、アジア・オセアニア・サービス事務局 70,000円
国際出版基金 106,900円
ワールド・サービス・ミーティング事務局 187,733円です。

本当にありがとうございました。

元ニューヨークのG.S.O所長のジョージ・ドウシーは、W.S.Mの出版委員会の中で「国際協力献金の意義は、どれだけ多くの献金が集まるかと、言うよりは、どれだけ多くのグループが、この献金に協力してくれたかと言う事の方が意義がある」といわれました。多くのグループと個人の献金を、お願いいたします。 以上

庭の事もしなくてはならない。ただ楽をしたいだけなのです。大きな力を借りなければこの怠惰は変えることが出来ない気がしていたのです。このチャンスを逃がすこと出来ないと思った。

東北地域のグループの経緯が報告され、ビギナーズミーティングの課題、新しい仲間を惹きつける魅力とは、グループの一体性をどうつくるかなどのテーマで進行され、多くの仲間の経験が話されました。特に新しい仲間が来たとき、私はどうしてあげられるだろうか、ちょっとした言葉をかけてあげているだろうかなど自分の行いを振り返ってみる。家族から見放される寸前の中、全然知らない人ばかりのミーティング場へ行くのは、大変勇気のいることだ



ったが仲間の笑顔、ちょっとした言葉が私を救ってくれた、そんな基本的な事を疎かにしているような気がする。この分科会で得た経験をグループの中で行う勇気をもたらしたことを嬉しく思う。

次の日は前日の報告とディスカッション、J S O、評議会、常任理事会の活動報告など、とくに新しいビッグブックに携わってくださった仲間の話を聞き感謝の気持ちで一杯になりました。ありがとうございました。

北海道から思い切って参加して、強硬スケジュールを終え、千歳に着くと、主人と娘が迎えに来てくれていた。顔を見るとホット疲れが飛んでいった。これもA Aが与えてくれた幸せです。

〒171-0014東京都豊島区池袋4 17 10土屋ビル4 F
A A日本ゼネラルサービスオフィス内
AA日本常任理事会文書担当常任理事 金田
2000年3月16日

A Aメンバー及びA Aグループ
各位評議会メンバー各位

序文翻訳一部改訂のお知らせ

このたびの12のステップと12の伝統を含むビッグブックの翻訳改訂にともない、序文も、12の伝統の新訳に合わせて以下のように一部改訂させていただきました。

今回の改訂にあたっては、評議会文書委員会と何度も審議を繰り返した結果、最終的に全員一致の承認を受けることができました。グループのメンバーのみなさまにもどうぞご了承頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

序文

アルコールクス・アノニマス®は、経験と力と希望を分かち合って共通する問題を解決し、ほかの人たちもアルコールリズムから回復するように手助けしたいという共同体である。

A Aのメンバーになるために必要なことはただ一つ、飲酒をやめたいという願いだけである。会費もないし、料金を払う必要もない。私たちは自分たちの献金だけで自立している。

A Aはどのような宗教、宗派、政党、組織、団体にも縛られていない。また、どのような論争や運動にも参加せず、支持も反対もしない。

私たちの本来の目的は、飲まないで生きていくことであり、ほかのアルコールクスも飲まない生き方を達成するように手助けすることである。

(A . A . グレープバイン社の許可のもとに再録)

グループの代議員の皆様には、各メンバーのかたがたに幅広くお伝えいただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

A A日本ニューズレターNo. 81

編集・発行：A A日本ゼネラルサービスオフィス(J S O) 〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル4 F
TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ：<http://www4.justnet.ne.jp/~serenity/>